

時間割コード	Q3002901	開講年度	2026				
授業題目	教育学概論【第3欄】				担当教員	荒井 英治郎	
英文授業名	Pedagogy						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限	対象学生	L, S, T, A, F
講義室	共通教育 1 3 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業のテーマは、教育の原理を基盤として、人間形成における教育の機能と課題に関する理解を深めることである。特に、教育の概念・歴史・方法を学習することを通じて、主体的に学習する基盤を構築していくための条件を探究すると同時に、現代教育改革の特質を捉える視座・視野・視点を習得することを到達目標とする。 本授業では、教育とは何か、人間の育ちと学びにとって教育とはいかなる意味を有しているのかといった教育や学びをめぐる本質的問いに向き合うと同時に、教育や学びに関する基礎的知識を習得し、現代教育改革の理論（理念）と実際（現実）を捉える視座・視野・視点を習得していく。なお、授業のスタイルとしては、講義の他、グループワークも併用し、主体的に学習できる授業を展開するものとする。						
(5)授業のキーワード	教育学						
(6)授業計画	授業計画 第1回：教育の概念・理念・機能1（人間とは何か、教育とは何か） 第2回：教育の概念・理念・機能2（教育の社会的機能、遺伝と発達） 第3回：世界の教育思想・哲学の潮流（デューイ、シュタイナー、モンテッソーリ、フレイレ、ショーン、ノディングズ、ヌスパウム、ピースタ等の教育思想・哲学とその特徴） 第4回：教育と家庭教育・社会教育・生涯学習（学校教育、家庭教育、社会教育、生涯学習） 第5回：教育の目的（学校とは何か、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育の内容、授業の構造・内容・方法） 第6回：教育の歴史1（前近代・近代の学校と教育の歴史） 第7回：教育の歴史2（戦時下・戦後の学校と教育の歴史） 第8回：教育と社会1（教育と人間形成・成長、教育と「社会化」） 第9回：教育と社会2（生涯学習社会、学校教育の意味と役割） 第10回：現代教育改革の諸動向1（教育基本法の改正、学校教育法の改正等） 第11回：現代教育改革の諸動向2（各種審議会の改革案の内容と特徴） 第12回：現代教育改革の諸動向3（学習指導要領の改訂論議） 第13回：日本の教育制度の課題1（教育改革、地方分権・規制緩和など） 第14回：日本の教育制度の課題2（子どもの権利条約など） 第15回：今後の学校教育の展望と課題（教育の失敗と成功） 授業の最後にアンケート実施 15分間						
(7)成績評価の方法	授業中の発言や態度、毎授業提出してもらう「リフレクションペーパー」等の平常点（5割）、学期末レポート（5割）などから総合的に評価する。詳しくは、初回授業時に説明する。						
(8)成績評価の基準	授業で学習した教育学理論・研究の知見を活用することができているか、自分自身の教育経験を相対化することができているか、自身の考えや今後の展望を具体的に論じることができているかどうか。 から のうち、全て満たしていたら「卓越している」ないし「かなり上にある」、から のうち2項目を満たしていれば「やや上にある」、1項目を満たしていれば「水準にある」。						
(9)事前事後学習の内容	・指定テキストの該当ページの熟読（ガイダンス時及び毎授業時に該当ページを指示） ・グループ内でのディスカッションのための論点整理メモの作成 ・グループ間でのディスカッションのためのプレゼンテーション準備 ・グループ間でのディスカッションを踏まえた上での考察レポートの作成 この授業は、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	授業は、教員による講義を基本とするが、履修者は、積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することを望む。 初回授業では、授業計画・概要、授業方法と評価に関する説明を行うため、履修予定者は、必ず出席すること。 毎授業前にレジュメ等をアップロードする。履修者は必要に応じて各自ダウンロード・プリントアウトして授業に参加すること。 なお、必要に応じて、ビデオ・DVDなどの視聴覚教材を活用する。						
(11)質問、相談への対応	簡単な質問については講義中に随時受け付け、講義中・講義後・次回授業時に説明を行う。その他、初回授業時に伝えるメールアドレスにて随時質問を受け付けるものとする。						
(12)授業への出席	全15回の授業に出席することを基本とする。6回以上の欠席は「不可」とする。						

(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により受講が難しい場合は、共通教育履修案内に記載されている方法により補充を受けるための申請を行うようにしてください。
【教科書】	・伊藤良高・岡田愛・荒井英治郎編『教育と教職のフロンティア』晃洋書房，2021年 ・教育フロンティア研究会編『ポケット教育小六法』晃洋書房，2026年
【参考書】	・木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ 改訂版』有斐閣、2019年 他にも毎週の授業時にて紹介する。